

分子科学研究所所長招聘会議「博士人材のキャリアパス多様化を加速する」

2024年6月11日（火）の午後に、分子科学研究所所長招聘会議として、公開シンポジウム「博士人材のキャリアパス多様化を加速する」が行われました。日本学術会議化学委員会の活動の一つとして、分子科学研究所、日本化学会戦略企画委員会との協力事業として、例年行われているものの一環です。これまでこのシリーズのシンポジウムでは何回か、人材育成に関するテーマを取り上げてシンポジウムを開催しましたが、日本学術会議化学委員会で昨年、見解「日本の社会・産業をリードする化学系博士人材の育成支援と環境整備」を発出したところで、その意義の再確認・フォローアップも意識して、博士人材のキャリアパスを題材としたところです。

現在我が国において、少なくとも化学系企業では、博士修了者の採用に積極的になっているにも関わらず、博士課程進学者が増加しない（むしろ減少傾向）という現状があり、将来の産業にも深刻な問題を生じかねない状況にあります。上述の「見解」では、その根底にある理由を探り、博士課程進学者の増加の方策を考察しています。今回のシンポジウムは、「見解」の内容を振り返りつつ、博士取得後の、特に民間企業におけるキャリアパスの現状、博士取得者獲得のために官民で行われている施策について、化学分野にとどまらず、他の分野での状況も含めて議論しました。

講演、討論においては、現在多くのメーカー企業において、博士人材の雇用を進めており、それが企業の開発力の源泉となっていること、当然のことながら、企業が求めているのは学位そ

のものではなく、その取得のプロセスで得られる開発力、新規のものを創出する能力、更にそれらをマネジメントする能力であることなどが紹介されました。博士人材を増加する方策として、官学が博士課程学生に対する待遇を改善する各種の取り組みの他、企業でも様々な形で奨学制度を充実させていることについても議論されました。これらの社会要請や取り組みが学生に浸透し、博士課程進学者が増加することが、産業界とアカデミアの双方にメリットをもたらすことを期待しています。

（岡本 裕巳 記）

